
マンガ喫茶だより

樸 念仁

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

マンガ喫茶だより

【Nコード】

N3930E

【作者名】

樸 念仁

【あらすじ】

これからどうなっていくのかなあ。不安だなあ。考えると、今夜も眠れそうにないよ。ぼくもこういう生活になろうとはなあ。明日があるのかな。憂鬱だな。小説でも書いて夜を明かすか。

タバコが眠れない

酒なら飲みたい。けむたいのはごめんだ。

小さい時分からタバコの煙が何よりも苦手なんだ。鼻にツンツンきて頭が痛いし、疲れてる時なんかハキケがする。

おやじは吸わなかった。おふくろが日に二箱もやるヘビースモーカーで、息が非常に臭かった。クワエタバコなんかしていると逃げて歩いたもんだ。

「母さん！タバコは庭に出てやってよ！僕の部屋にそんなものを持ったまんま入って来ないで！！」

よくどなつたつけ。おふくろも四年前に死んじゃった。それからずっと下り坂だ。

おやじには出て行けと言われる。だから三年も会ってない。生きてるのやら死んでるのやら。

八年もやったハケンの仕事は去年解雇になる。

そのあと見つけた飲食店の夜のバイトも先々週でクビ。エンキョクな言い方ではあったけれど、要するに、あんたはトシのとりすぎで時代についていけないオッサンだから、やっぱり使えない。そういうことだったらしい。

んならハナっから雇うなって。研修だとかって、悲しくなるほど安い賃金でさ、さんざっぱら人をアゴで使っておきながら。

あの店長いくつだ。二十五六だな、あれは。

小僧みたいなやつにコキ使われるのは愉快なもんじゃないな。でも、しばらく食いつないんだから、まいっか。

これからですよ、困っちゃうのは。困ってしまいますよ？この私は。困った困ったと。
ところで臭いな。

ツンツンするのはどっから入ってくるんだ。

たまらないな、まったく。1800円も払ってるのに。よけい眠れないじゃないか。隣のやつはイビキをかいてるし。よく平気でいられるな。

空調システムが喫煙室とつながってるのかな。

いやんなっちゃうな、もう。

コワくて眠れない

血筋は争えないというか何というか。神経がカビンなところがさあ。

おやじもA型のテンビン座。うま年じゃないけれど。ま、うまがあわないわけだ。

しゃれてる場合じゃない。

どっちか選べと言われたら、おふくろに似たかったね、性格面はナンダカンダ言つて、ゆうべは眠れた。眠れすぎちゃったくらいだ。ずっと寝不足で疲れていたからね。

誰かに肩をゆすられていた。

ぼーっとした。ネボケマナコに映っているのは、ちょっとカワイイ系のちやばつギャル。

十二時間になりましたので一旦会計をお願いします、とさ。

前、まだアパートに入っていたところだったけど、ニュースで見たのに、一週間も十日も流連したあげく、勘定ができなくてイニゲしようにとした男がとつかまって警察に引き渡されていた話があったけれど、そういうことがあるから店側でもトリタテを厳しくするようになったんだろう。

樸も引き渡されてみようかな。サイテイゲンの衣食住は保証されるんだし。逆に健康になって出てくるという説もあるしな。LDの社長Hなんか、でぶがケツコウ・スマートになってましたよ。ひとつ留置場ダイエットに挑戦してみるか。

でもな、警察もやさしくないようだからな。身ぐるみはがされてお尻の穴まで調べるってさ。クツジョクだろうな。

あしたは時間内に起きなきゃ。

こういう所はネボウすると大損をこく。

きのうは1800円のつもりで入ったのが、結局3200円も取られちゃった。

どうせ起こすんならもつと早く起こしに來いよ。

あれも作戦だな、きつと。取れるだけ取っちまおう。そういうコ
ンタンなんだろう。

3200円。

そんだけあればカプセルホテルで足腰をのばせたのに。あ、あ、
あ、もったいない。

何でもいいが、すみのやつ、テレビはヘッドフォンにしてくんな
いかな。

隣人の迷惑を考えない日本人が増えてると思うけど、本当だよ。
何のためにヘッドフォンを備えつけてあると思うんだ、まったく。

そのくらいならいっそボリュームを上げてくれないかな。コチヨ
コチヨ小さい音でやられると余計気になって仕方がない。

お前のせいでネボウしたらまた3200円だ。うらむぞ。

神奈川の屋根の下

今日は嫌な天気だったね。風が吹いてて、寒くて。

台風がどつか近くを通っていったとかで。

これからツユの季節、タイヨウの季節、タイフウの季節。嬉しくない季節のオンパレードだ。

季節がヘンカしない土地へ行ってみたい。ハワイなんかいいだろうな。タヒチもよさげ。ポールⅡゴーギャンか。・・・いったいムネヒトⅡアラキはどこへゆくのか。

図書館があくまで行くところがないのはミジメだ。とくに今日みたいな天候では。

五時には出なくちゃなんないし、出なきゃまた高くつくし、図書館は九時半開館だし、どうするよ。

吉野家でネバってみようと思ったけど、おなががすいていたもんだからギユウドンナミイツチョウは二分でなくなっちゃった。

なにしろタベはケンヤクするつもりで、ドリンクバーでガマンした。コーンポタージュ風の温ったか飲み物を何杯もオカワリして。

今も頂いてるけど、なかなかいけますよ、このドリンクは。おなかにたまりそうな感じで。

でも、さすがに今朝はペコペコ。ひとばん何も食べないんだからね。いくらポタージュ風だったって、そうヤスヤスと腹の虫は胡麻菓されませんよ。

二分でイブクロにおさめてお茶をすすっていたら、こっちが何も言わないのに、

「お勘定ですか？」

まるで早く出て行ってほしいみたいに。

オカンジョウデスカと言われちゃ、こっちだってイエマダデスと

は言えないじゃないか。

「はい、お願いします」

樸の損なところだ。この期に及んでまだミエをはらずにはいられない。イエマダデスと言ったらいじゃないか。勘定を払ったにしまつて、一時間でも二時間でも好きなだけいれればいい。

けれどもカツコ悪いから、

「ごっそうさーん！」

これから行き先があるようなイセイの良い声を放って、雨と風に当たりに店を出た。

マヌケですよ、どう見たって。大きな荷物を背負っちゃって、先週公園のトイレで拾った白いビニール傘をさして、さてどこへ行こうかムネヒトアラキ。

とりあえずコンビニでタチヨミ。テンインにはいかにもエイギョウボウガイといった顔をされる。何たってカタツムリみたいな恰好をしてるんだからしょうがない。

体が少し二才ったのかもしれない。きのうは銭湯が休みだった。がんばって三十分ほどタチヨミしたけれど、それ以上は図々しくなれなくて、また外に出た。

駅があつたつけ。そうだ。駅があるじゃないか。駅だ駅だ。駅へゆこう。あそこなら図書館も近い。

ってなわけで、カイサツの前のマチアワセバシヨで三時間と二十分、荷物の上にとつかと腰をおろして、待ち人でもあるかのような顔をして、ちよいとハイシヤクしてきたミシユランの東京版を出して、読んだ。できるだけ通勤通学の客たちを見上げないようにして、ゴカイしてもらっては困るが、ミシユランガイドは本当にハイシヤクしただけ。又スム気なんかさらさらしない。どうせ今晚もって帰

るんだから。ゲンにもって帰って来たんだから。

図書館は見るのは自由だけど借りれない。住所をショウメイするものがないとカシダシができないのだ。ジウミンヒョウだって八王子にあるんだし、八王子市民には貸してくれない。八王子のジウミンヒョウからしてマツショウウされてる可能性がある。コクミンホケンとかゼイキンなんかぜんぜん払ってないんだから。非コクミンだな、これは。

図書館じゃ借りれないから、ここのコレクションをハイシャクすることになっている。

けさ出かける時に本棚を見たらホームレス中学生があつた。ミシユランガイドにしようか、それともホームレス中学生にしようか、迷ったんだけど、ホームレス中学生はカクレて読むもんだと気がついて、ミシユランガイドを選んだ。でももう一生エンがないレストランの案内なのかもしれない、樸的に言つて。

だからホームレス中学生はまだ読んでないけれど、そして今は誰かほかの利用者が借りてるらしくて本棚にはないようだったけれど、あの小説では先をこされた。

本当は樸がベストセラーを書く予定だったのに。すてきなタイトルまで決めてあつた。

屋根の下のホームレス

カイシンの作になるはずだった。

ハケンの仕事は職場の雰囲気が何となく樸の首を切りたがつてる。どうもクモユキがやばそうな感じになってきた去年の初めごろ、帰りの電車に揺られながら浮かんだタイトルだ。

その後、本当に切られちゃって、それから飲食店の夜のバイトは思ったより大変で、公称「社宅」の安アパートに引っ越すのなんかでもバタバタしていたから、つい書くひまがなかった。

知らないうちにホームレス中学生と題する書物がジーンコウにカイ
シヤするようになって、あの時はしまったと思ったね。

今さら屋根の下のホームレスじゃね。パクったと思われるのがオ
チだ。ホームレス中学生よりは屋根の下のホームレスの方が数段う
えだと思っただけ。ずっと文学的だと。タイトル的に言っ

僕はコタツムリになりたい

ゆうべはチョウシこいて小説家きどりでヨフカシしちゃった。はりきって書いたら、なんだかノウミソがコウフンして、投稿したあともずっと寝つかれなかった。

何のために高い金を払ってヤネを借りてるのか分かりやしない。バカだね、本当に。

おかげで一日をゾンビの如く暮らした。出しなに本棚を見たら今朝は恋空があった。

人が見てる前でダイのオトナが読むには恥ずかしそうな本だけど、じゃ今日は球場のある大きな公園に行って恋空を読もうと日中の計画を立てて、ハイシャクして荷物の中に忍び込ませた。

ロビーで支払いをしている時にアサツパラからバッドニュース。考えるととても憂鬱になる。

ちかちか料金がカイテイになるそうだ。

何のカイテイだい！

ポタージュ風ドリリンクのシイレカカクがゲンユダ力でコウトウしたか！

悪質なビンジョウネアゲだな、これは、どう考えても。カタツムリ人間泣かせの。

困ってしまいますよ、私のような者は。

ヤスヲ君は何をしているのだ。

みんながアンシンして暮らせる国造りに着手してもう何カ月だ？イタリア旅行をしてるヨユウはない。早くしてくんないとまずいのだよ、私は。屋根の下もそろそろボール紙の屋根になりそうですよ、このままいけば。すべて世の中のありにくく、わが身とスミカとはかなくあだなるさま、かくのごとくかくのごとし。

むかしアンシヨウさせられたつけ。いまごろ役にたつとは思わなかった。

箱おじさん

なんかどうだろう。いや、僕のベストセラー小説に附するタイトルのことですがね？

箱おじさんじゃホームレス中学生よりもっとパクリか。
何かないかな。

じさん

まいまいつぶろお

ゴロが悪いな。

社宅アパートに入ってたころ、布団もストープもなくってコタツの中で生活していたことがあったけれど、店の女の子が訪ねてきて、「アラキさんてコタツムリだね」なんてって笑ってたな。人の気も知らないで。

まあいいや。タイトルはまた明日考えよう。

ハイシヤクはしたけど、アタマが疲れていて結局恋空は開いてもみなかった。読書の気分になれなかった。

だから午前中は球場のある大きな公園のベンチにかけて丹沢の山々を眺めてぼーっとした。

すぐ下はJR相模線の線路だ。サラリーマンやらOLやらシヨシコウセイやらを乗せて電車が通る。

公園はハナミの名所らしい。桜のタイボクがたくさんある。

99で買ったマヨネーズ入りの鰯寿司を食べて朝食兼昼食。

公園も飽きたから午後から移動。それに、公園は子供を遊ばせるお母さん連が何組も。子供を遊ばせているのに、ブショウヒゲを生やしたまいまいつぶるおじさんにゾンビのまなざしを向けられるのもキミのいいものじゃないだろう。最近はいろんなジケンがあるから。

市役所のあるメインストリートを国道16号の方へと歩いた。

メインストリートも両側が桜になっている。一キロほど、桜の並木がずうっと続いている。花見時のこの町はオオニギワイなんだろうな。

歩いてくと左にデニーズがある。デニーズなんて半年も入ってない。もつとかな。

若かった時はよくデニーズブラックファーストというのを食べたけれど、まだやってるのかな、デニーズブラックファースト。

99の鰯寿司一個じゃアシに力が入らない。ちよっと歩いただけでくたびれる。背負い物だってしている。

デニーズはマダムたちでいっぱい。もうちよっと行ったところにベンチがあったから、かけてうなだれていたら、

「コレ、飲ミマスカ」

外国のおじさんに話しかけられた。

考えてみると、誰かに話しかけられるのは久しぶり。カワイイ系のちやぱつギャルにたたきおこされたりするのをのぞけば。

外国のおじさんはカンコーヒーを二本もっている。見たとこ五十四五かな。もつと行ってるかな。服装はこつちとあまり変わらないヒンソウな感じ。ガイジンにしては珍しい。

「ドウゾ。取ッテクダサイ」

さしだしながら、となりに腰をおろす。

「ドウゾ。アナタニ上ゲマス」

「はあ。じゃ、遠慮なく」

「今日ハ、雨、降りマセンカ？」

「さあ、降らないんじゃないすか」

「良カッタデスネ」

「そうね」

「アナタ、今、何ヲシテイマスカ？」

「とくに何も」

「何デスカ？」

「考えごと」

「ソウデスカ。ワタシ、エイゴヲ教エマス。エイゴ、勉強シマセンカ？」

「いいよ、アメリカに行く予定はないから」

「モウ一度、言ツテクダサイ」

「アメリカはきらいだから英語は勉強しない」

「ドウシテ、アメリカガキライデスカ」

「すぐ戦争するからだよ。世の中が思いどおりにならないと戦争して思いどおりにする。世界で一番悪い国だ。アメリカぐらい邪悪な国はない。北朝鮮なんか比じゃないよ。それが分かってないのはアメリカ人だけだ。ひよつとしてあなたアメリカ人？」

「イイエ、チガイマス。ワタシハカナダ人」

「そうか、それはよかった」

「ワタシノ妻ハ、アメリカジン」

「まあそれはいいんだけどね。俺はアメリカはきらいだけどアメリカ人はきらいじゃない」

「ソレハ良イコト。エイゴハ、キライデスカ？」

「英語はきらいだね」

「ナゼキライ」

「なに、そんなに英語を教えたいの？あんとこはただで教えるの？ただで教えるんなら教わりに行くよ」

「モチロン、タダ」

「本当にただなの？」

「タダタダ。今日、コレカラ free lesson。六人来マス。アナタも一緒ニ。ドウデスカ？」

「いや、冗談だよ。ただだって何だって英語はいいよ。学校でさんざんやらされたんだから。使ったためしがない」

「ソウデスカ。ソレハ残念。明日モ、ココニ来マスカ？」

「誰。俺が明日ここに来るかって？」

「アナタ。明日、ココニ来マスカ？」

「来たそうに見える？」

「来テクダサイ。明日、マタ、話シマシヨウ」

「俺と話がしたいわけ？」

「アナタト話シタイ。ワタシ、コレカラ行ッテ、教エナケレバナラナイ。明日、同ジ時間、来テクダサイ」

「気が向いたら来るよ」

五分ばかりムダバナシしてカナダ人のおじさんは近くのビルの中に消えていった。

何だろうね、いったい。コーヒーをくれたからいいけど。

どうせくれるんならコーヒーよりビールがよかったんだけどな。

帰ったらコーヒーなんかいくらだって飲めるんだから。ゼイタクを言っちゃいけないか。

ビール飲んでないなあ。ビールが飲みたい。恋がしたい。空までのぼる恋がしたいなあ。

ムリか。

デッカイトンカツ、タベタイ。

失台

日中雨のヨホウがはずれたので樸に新たなシュトクブツができた。
ここだけの話です。

いわゆるひとつのコクハクです。

やろうかやるまいかと思つてたことを、とうとうやってみました。
正式に購入すれば二三万でとこでしょうか。

例によつてクウフクと落ち込んだ気分を抱えて出掛けました。早朝五時四十分、バックパックの中には恋空、手には公園のトイレで拾つた白いビニール傘。購入すれば三百円でとこでしょうか。

ちなみに、傘を与えてくれた公園は、昨日ベンチにかけて丹沢の空を眺めた球場のある大きな公園とは、別の公園です。

この町に来て十日ばかり、だんだん分かつて来たことがあります。それは、この町はやたらに公園が多いのです。それも、大きな公園があつちこつち。

便宜上、昨日の午前の時間をすごした球場のある大きな公園を、球場のある公園aとしましょう。理由は、以下をみれば明らか。

宿を出発してすぐです。球場とおぼしきスコアボードと照明設備が見えます。

キブンテンカンに、今朝はいつもと方向を変えて、大通りにそつて歩くことをしないで、大通りをまたいで、住宅街の中に入つて行きました。

オヤ、あそこにも球場が。

きのう歩いたのとは、方角的にマギャクの関係のはずです。

樸はタグイ稀なホウコウオンチなので、位置関係のことはあまり自信が持てません。けれども、どう考えても、今見えている球場とおぼしき所は、球場のある公園aではありえません。

球場のある公園aは、坂を下りていったアケツピロゲな場所にあ

るのに対して、これは、平坦な住宅地の中に隠れるように見えています。球場のある公園aは、丹沢の山並みが望まれるのに、いま僕は、丹沢の山並みに背をむけて歩いているのです。

行ってみると、思ったとおり、球場のある公園aとは違うところでした。球場のある公園bです。しかも、球場がひとつではなく、ふたつあります。本格的なスタジアムと、少年野球に使うような小さなやつと。

球場のある公園aでさえ大きな公園と思っていましたけれど、球場のある公園bは、その四五倍もありそうなコウダイな公園です。

中には小学校があり、中学校があり、高校はふたつあります。宿泊施設まであります。学校の生徒が早朝のランニングをしています。そうそう、アリーナもありました。この季節はプール、冬はスケートリンクに早変わりするというふうに書いてありました。（プールは、球場のある公園aにもあります。大会が開ける50メートルプールと、飛び込み用のプールを昨日見学してきました。）

とにかく、球場のある公園bは、大きな大きな公園です。

早朝ランニングをする生徒のほかに、早朝ウォーキングをするおじちゃんおばちゃん元気よく腕を振って通ります。僕も仲間に加えてもらいました。

ちかごろ体重が落ちてきたとはいえ、まだまだメタボぎみな僕です。去年の誕生日の時点で、体脂肪率39%の記録をもっています。おじちゃんとおばちゃんにまじって球場のある公園bを二周すると、もうへとへとです。タベもポタージュ風ドリンクだし、朝食はまだなので。背中には荷物だつてあります。

疲れて木陰のベンチで休んでいると、オヤ、あそこに何かが。

たくさん目にとまります。置場にホウチしてあります。どう見てもホウチ物です。隅っこに片寄せてあるので。お互いにもちつもたれつ、やっと倒れずにいるような情けない自転車が九つ十。

得題

くもりのち晴れのヨホウははずれたので新たなシュウトクブツも僕の役に立たない。

宿所の自転車置場に置いたまま、大通りにそって、球場のある公園aに行くのとは反対の方向へ歩きだした。

今日もビニール傘の定番だ。

雨ばかり降ると思ったら、知らないうちにツユイリしたというじゃないか。なんか早くね？

シュウトクブツには青色のチェーンが掛かっている。昨日、シュウトクした帰りに、99に立ちよって購入した。ただ、番号が1234というのは、いくぶん心もとなさげなチェーンではある。メー・ド・イン・チャイナの安物だから言っても仕方がないか。

宿所の自転車置場は、ちよつと目に付きにくい、階段下の奥まった場所にあるから、取られることはマズないと思うのだけれど。一番良さそうな一台を選んだ。席が少し破れているほかは、どこにも異常はない。タイヤなんか新品と同じ。赤い色をしたマウンテンバイクだ。

ああいった立派な物を、モツタイナイことをしてホウチしておく人間がいるとは、日本もまだまだ豊かなんだね、豊かな人間は。豊かでない人間は、つまり自転車でも拾わなくっちゃやってけないわけだ。カクサだなあ。

チェックアウトの時刻には雨があがっている約束だった。

憂鬱なのは雨のせいばかりじゃないけれど。

またやってしまった。金参千弍百圓也。3200+10圓だったかな。いいや、こまかいことは。

今日はカワイイ系のギャルにも起こしてもらえなかった。スキンヘッドのオニイサンだった。面白くもない。

ヒトの物を拾っちゃったからバチが当たったのかな。

散財ついでだ、牛丼をたべよう。

きのう、自転車を乗り回しているときに、近所にすき家があるのを発見した。吉野家よりずっと近い。大通りをいつもと反対方向へ行けばすき家がある。自転車を拾うまですき家方面をカイトクしたことがなかった。

で、中の様子を見たところ、カウンターだけでなくテーブルがあった。店内が吉野家みたくインキじゃなくて、ちよつと高級感さえ漂っていた。メニューも色々あったようだ。

料金体系が不安とはいいながら、景気付けの意味で、すき家で朝飯と決めた。（料金のことはキウウだった。吉野家よりずっと安いと分かった。サービスや味の点でも、樸的にはすき家の方が上だと思うのだが、両店違いの分析は、またいつかしよう。）

自転車だと近く感じたことだったけど、雨の中を財産を背負って歩くにはやつぱり距離がある。

ビニール傘は頭と肩だけ守ってくれる。足元は濡れる。バックパツクはまともに雨を受ける形になる。

ゆうべ七時ごろのニュースでは、天気予報のオネエサンはクモリノチハレと、確かにそう言ったのに、話がちがった。

天気予報を聞いてからキーボードをパチパチやって、書いたものを投稿したらまた十時が過ぎていて、おそろしく眠たかったものだから歯もみがかないでそのまま寝てしまった。

ひよつとしたら、あとでヨボウが変わったのかもしれない。今朝は丹沢の山並みは見えず、雨空。

オヤ、いいな。今のなんか行けさげ。

山並みは見えず、雨空

意味ありげで、ヒビキが何となく切なさげで、タイトルとして大いにつけさげ。

よし。タイトルは決まった。これでいい、と。いいけど、本の中

身をどういうふうにするのか決まってるのはまずいな。

ラブラブのカップルが無情な運命のためにお互い好きでもない相手と関係を結ぶようになる。 . . .

ありそうな話だな。

ありすぎて今さら女性層の支持が得にくげ。近年のトレンドでは、女性の支持不支持がマーケットの動向を左右するというからねえ。

本の最後には書いた人の写真がのるんでしょう？板橋無宿まいまいつぶろおじさんでございじゃ、内容とのギャップが大きすぎてドツチラケだろうな。それに体脂肪率39%じゃあなあ。

内容の心配はあとまわしだ。とりあえずタイトルにこだわってみよう。

山並みは見えず、雨空。

おしまいにマルを付けた方が切なさげっぽくていいかな。
テンもマルも抜いたらどうだろう。

山並みは見えず 雨空

何かしらまらない感じだね。

山並みは見えず 雨空。

アンバランスだなあ。

これで全四通り、出そろったわけだ。おっと待てよ、

山並みは見えず。雨空

こういうんだってあるわな。

これだと全部で何通り作れるんだ。分からなくなってきたぞ？こ
ういうのを昔数学の時間にやったな。

山並みは見えす。雨空。

これで全部かな。まさか

山並みは見えす。雨空、

なんてのはないだろうからな。
ええい、直感的に

山並みは見えす、雨空。

これだ。これで行こう。これが一番つける。やっぱりマルが効い
てるよ。

少女っぽくて、女子高生っぽくて、OLだって本を手にとりたく
なるようだ。

小説のタイトルにマルが付いたのなんて見たためしがない。

ううん・・・、でもなあ、山並みってのがゴツゴツしてるかな。
やさしく

山なみは見えす、雨空。

こうしようか。

できた。キレイじゃないの。

よし、今度こそ先を越されないうちに、この俺がものしてやるか、傑作切ない系小説を。何しろタイトルにマルを付けたところがミソだ。
・ ・ ・

上記のような思索にふけりながら、すき家で朝飯をしたためていたら、おいどうなってんだい、晴れてきちゃったよ。山なみが見えだしたじゃないか。

8：00、日が照ってきやあがった。

となると、こいつを食べたら宿所に引き返して、6月6日、金曜日、雨空のちくもりノチハレ、今日も一日サイクリングだい。

自転車があると行動のハニーが広がるからいいよね。

乞ご期待

住むべきか。

往くべきか。

ワカレメつてとこだな。

住みにくい町ではない。

自転車さえあればどこへだってアクセス可能だ。坂が少ない。平らな面積が多い。

樸が根拠地と定めるこの近辺が、市役所のそばなのだし中心街なんだろうと思っていたら、本当の中心街は全然別のところにあった。自転車で四五十分。

何十分もかかる所だがヘイタンな道のりだから割りあい楽だ。途中、牛舎とか養鶏場なんかがあつてくさい。

中心街へ行けば立派なステーションビル、一流デパート、明るくて開放的な図書館、そういった文化施設がそろっている。行きつけている近くの図書館は、できて何十年もたつ薄汚い感じの建物だ。

今日、自転車を走らせていると賑やかなところに出て、それが中心街だと知った。

おりて、青色のチェーンを掛けて、デパートには用がなかったのだが図書館を使わせてもらおうと思った。トイレにも行きたかった。キレイなトイレに違いないと考えた。こう見えてもシンケイシツな樸だから、不潔なトイレを使うことを好まないのである。

図書館に行くのだけれど、どうしてもデパートの中を通るようにできている。デパートと図書館が合体しちゃっている。二階三階が図書館、ほかの階にデパートが入っているようだった。それから忘れていた。コンサートホールもあった。こういう入り組んだ構造になっているのかは知らない。デパートと図書館とコンサートホールとが一体になった、なかなか大した文化施設だ。(ステーションビルとはアーケードで隔てられているから、建物的には全く

切り離されている。)

図書館に行きたいだけなのに、若くて美しそうな女の人化粧品だとか香水だとか売っている売り場の前を通らなければならぬ。僕はバックパックを背負っている。きのう雨にぬれ、火曜日だったか水曜日だったかに雨にぬれ、その前にも何度かひどく雨にぬれた特大のバックパック。僕の汗がしみこんだ、特大バック。

きのう雨にぬれ、火曜日だったか水曜日だったかに雨にぬれ、何度も雨にぬれて長らく洗ってないジーンズ。古ぼけたワイシャツ。

きのうは、あの蒸し暑さの中で自転車をこぎ、痩せる気で一日かかって川崎の方までサイクリングして帰って来、夜は湯銭を節約したので、ポタージュ風ドリンクが飲めるドリンクバーの奥のトイレに入って、手拭いで体を拭いて寝た。図書館に行こうとデパートの店内を通り抜けながら、公共の施設があまりに文化的なのもどうかと考えた。

ところで、図書館からの帰りに非常に助かる施設をみつけた。今日は利用時間が終了していたから入浴しそびれたけれど、誰でもタダでお風呂に入れる施設だ。温泉なみの大浴場があるという。だから今晚も銭湯はよして、明日一番で入りに行くことにしている。

この町は昔の宿場町から発展したと、お米屋の婆さんが教えてくれた。ここより一段低い地の、坂を下りていったところがそうだがそれほど遠くはない。球場のある公園aなんか旧市街地からはひとまたぎだ。

どういうわけか旧市街はカイハツが遅れて、電車が通ったのも比較的最近の話。以前はデューゼル列車が走っていた。JR相模線のことだ。

宿場はそんなふうだったが新開地の方にデパートやらステーションビルやらが建つようになった。今日見てきた中心街というのは、だから新開地の様子だったので。

中心街から市役所までのサイクリングは高低の差がユルヤカだし、旧市街へは坂をおりて行くにしても、そこからはまたヘイタンにな

る。そのまま行くと山が近づいて、しまいには湖に行きつく。今日は湖にも行ってきた。午後の三時頃まで図書館ですごし、いったん活動の拠点であるこの市役所界隈へ戻ってきて、今度は湖を見てきた。だから今晚の僕は特別なにおいだと思う。

せっかく自転車が入ったのだ。

遠い旅に出てみたと思う。

今でも旅気分には違いない。見知らぬ土地で過ごす毎日、ずいぶん恥ずかしいことだって恥ずかしくないから恐ろしい。

とはいえ、一週間も二週間も同じ町にしていると、だんだん住人の目が気になってくるものだ。

同じ泊まり客で、今晚で彼の顔を見るのは四回目だが、その顔が松岡修造に似ているものだから心の中でシュウゾウと呼んでいる。シュウゾウはほかへも泊まるのだろう。二日か三日おきに顔をあわす。お互いに目をあわせないようにしている。

僕はシュウゾウのようにあっちこち泊まり歩くヨウウがない。

こういう施設は大体がメンバー制で、メンバーズカードというものを発行してもらわないと泊まれない。むろん、タダでは発行してくれない。

セコイ話をするようだけれど、五枚も六枚も持つとすると、それだけで二千円ぐらいは行ってしまう。おまけに、僕はこの町にいつまでいるか分からない身の上である。引っ越したら次の町でもメンバーズカードがいるようになるだろうから、そうメンバーズカードばかりに金を使つてはいられない。

これから決める前に一応自分なりに見て回ったが、結論から言うなら、ちかぢかネアゲに踏み切るつもりらしいこの店が、それでも一番安いようだ。一泊1800円という料金プランはなかなかあるものではない。だから僕はシュウゾウのようにはしないで、毎晩この屋にねぐらを求めているのである。

言つたように、そろそろ腰を上げようかとも思う。

シュウゾウの顔を見るたびに知らん顔するのはクツウだ。店の

人にも笑われているような気がする。またバックパックのお客さんが来たといって。

以前から中仙道をトウハしてみたい願いがあった。故郷の板橋から京都の三条大橋まで、一度やってみたいと思いつながら果たせなかった。自転車でソウハするのも面白かろう。

やるなら今だ。節約すればこの夏いっぱいぐらいはもつ。たぶんもつと思う。

そのあとで何か仕事が見つかるにせよ、本格的なルンペンになるにせよ、とにかくやれる間にやりたいことをやっておく。それもひとつの人生哲学だ。

賀茂河原の橋の下は箱おじさんのタマリバだと聞いたことがある。どうせ箱おじさんになるんなら山紫水明の景色をめながら風流にやりたい。

一方で、この町にも引き止められるものを感じる。これから夏だ。毎日タダプロが使えるアメニティーは捨てがたい。

旅に出たところで、結局金を浪費するばかりで得することは何もないのではあるまいか。

上方へ行つて、金が尽きて、病気で病した日には、まじ客死ということにもなりかねぬ。

神奈川あたりに留まっていれば、いよいよという時には、おやじの所へ行つて、頭を下げてワビを入れる方法が残されている。向こうが生きていればの話だが。まだ板橋の家にいるはずだ。

傑作切ない系小説だって書かなくちゃならない。いいあんばいにデビューできたら、その日暮らしのこんな生活ともオサラバである。

これは冗談ではない。僕は本当に書く気なのだ。

そのつもりで、バックパックの中には原稿用紙が入っている。しよっちゅう図書館へ行くのも、実はそれが目的なので。今は資料調べをしている段階だけれども、ボックス席を借りて部分的に書き始めている章があるのである、実を言つと。この町の図書館は親切な図書館で、よそものに本は貸さないけれど、ボックス席なら使わし

てくれる。

旅に出たらそのぶん執筆が遅れざるをえない。下手をすれば完成を見なくなる恐れなきにしもあらずである。出版社で編集長をやっている昔の同級生が、できあがったら見てやるから早く書けと言っ
てくれているのだ。

小説家になるにしても旅人になるにしても、僕は今しかない。迷
うなあ。

もう少し考えてみるか。

どっちにしても明日風呂を浴びてからのことだ。

というわけで、バックパックの客暮らしは次週もつづく

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3930e/>

マンガ喫茶だより

2010年10月23日17時04分発行